

平成22年度春学期 島根県立大学公開講座

【講座1】石見に生きる～石見の元気人が話す

会場：島根県立大学講義・研究棟 中講義室3

石見地域で活躍する方々をお招きし、活動紹介や具体的事例を通して、地域の魅力や活性化のヒントを探求します。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
1	尾野 寛明	過疎と戦うネット古書店のいま	2006年10月に東京から本社移転して3年あまり。過疎地における外貨獲得型の雇用創出産業として、とえっと販売の古書店として川本の地に定着しつつあります。なぜ、過疎地で古本産業が成り立つのか、その仕組みをお教えします。そして地域資源発進のためにいま取り組んでいる、ポイント交換システムの構想などもお伝えできればと思っています。	5/22 (土) 13:50～15:20
2	三原 綾子	若者が地域の問題を解決する！	石見地域には、跡継ぎのいない老舗旅館を20代の若者が後継創業したことで全国的に話題となっている旅館がある。旅館を地域の問題解決拠点として位置づけ、半旅館半個性的な働き方や、農を軸とした第6次産業化で地域の雇用創出に取り組む。そんな「若者が否かを選び働く」モデルが全国銘柄となった動きを学び、未来の日本を担う若者の「たくましい精神」を育てる講座としたい。	6/2 (水) 18:20～19:50
3	元木 雅人	次世代へ手渡すバトン、としての農業	有機栽培で農業経営を生業とする「いわみ地方有機野菜の会」と、その販売会社である「(株)ぐり～んは～」の取り組みをお話いたします。	6/9 (水) 18:20～19:50
4	福島 充	石見の水産物の役割と未来	地産地消、安全安心はもとより、地方の第一次産業が生き残るためには、地産都消、海外消費などすべての人々に石見海域で旬を迎える魚たちを味わっていただきたい。そういう願いを一步步歩んでいる、石見の漁師の話。	6/16 (水) 18:20～19:50
5	田代 信行	山ばかりで、何も無い！？	山村暮らしに憧れ、匹見町（現益田市匹見町）に1ターンして15年。「山しかないようなところへよく来たねえ」とよく言われましたが、なにに、山村は楽しいこと、興味深いことではないです。多くのヒト、モノ、コトとの出会いのなかで見つけた「何も無い匹見」の魅力とつきあい方を紹介します。	7/3 (土) 13:50～15:20

【講座2】外国人教員による比較文化論

外国人教員から見た日本の生活文化、教育、コミュニケーション等を自国のそれらとの違いを考察し、比較しながら相互の理解を深めていきます。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
6	シローコフ・ワジム (浜田キャンパス)	ロシアの人達の生活とその信仰	普通のロシア人の心を支えるものは何か、彼らが日々の喜びや悲しみにどう折り合いをつけて過ごしているか、日常の「祈りの姿」を考察します。最近、聖人に加えられた2人の女性－ペテルブルグの聖クセーニャとモスクワの聖マトローナへの崇敬の比較を行います。教会の復興は「中世への回帰」ではなく、新ロシア統一の道として評価します。	6/5 (土) 13:50～15:20
7	マニング・クレイグ・トーマス (浜田キャンパス)	言語の学習活動としてのコミュニティ組織化	本講義は、言語教育におけるいくつかの基本的な学習理論及び教授理論を考察します。また、その学習を容易にするためには学生主導のコミュニティのどのようなイベントが利用できるかについても考えます。これらの理論が島根県立大学においてどのように活用されているかを明らかにするために、いくつかのイベントの概要を紹介します。それらのイベントには、グローバルランゲージ国際会議、リーダーシップトレーニング、デイキャンプ、少数民族アウトリーチNPO活動、及び将来可能な様々なイベントが含まれます。	6/23 (水) 18:20～19:50
8	呉 大煥 (浜田キャンパス)	異文化コミュニケーションの理解	現代の世界は文化背景が異なる人々と接触する機会が頻繁になっている。それと同時に外国人とのコミュニケーションの機会も急激に増えていることも事実である。文化背景の異なる人々のコミュニケーションのためには語学力の必要性などはよく言われているが、実はその前に異文化を理解する力が要求されている。このように異文化間のコミュニケーションの理解について説明していきたい。	6/30 (水) 18:20～19:50
9	李 曉東 (浜田キャンパス)	『三国志』から読む中国文化	中国の文学作品の中で『三国志』ほど日本人にとって親しまれているものはないだろう。本家の中国においても『三国演义』をめぐる話題は尽きない。本講座では『三国演义』がいかに中国人の価値観や思考様式を反映したものかについて説明していきたい。	7/21 (水) 18:20～19:50
10	ケイン・エレナ・アン (浜田キャンパス)	イギリスと日本のバイリンガルリズムに対する支援や態度	スコットランドでは、80年代から小学生のうちに外国語の学習を始めることになっている。そのための小学校教員の研修プログラムについて解説する。イギリスの学校や社会は現在、英語以外のコミュニティ言語を話す生徒や英語が母国語でない生徒をどのようにサポートするか悩んでいる。日本の現状と比較しながら、最近私が興味を持った話題について話したい。	7/31 (土) 13:50～15:20

【講座3】本と図書館のWaku2 (わくわく) ツアー

新市立図書館建設の動きが活性化中、図書館への関心も高まっていることと思います。そこで、本講座で本と図書館を知るための仮想ツアーに出かけてみましょう。図書館についての知識を深め、大学図書館（メディアセンター）を実際に利用し、本の世界に触れてみましょう。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
11	上野 友穂 (浜田キャンパス)	図書館タイムトラベル—5,000年の図書館文化を知る—	図書館は5000年という月日を費やして、様々な資料と先進的な技術を吸収しながら発展してきました。この図書館の歴史を概観するとともに、日本と西洋での発展の仕方の違い、そして現代型の公共図書館と大学図書館のサービスや機能と課題についてお話しします。	5/29 (土) 13:50~15:20
12	上野 友穂 (浜田キャンパス)	司書は近未来型図書館の夢を見るか？	わざわざ図書館に行かなくても、様々な情報を得ることができ。情報通信技術の急激な発達、図書館の存在意義を問う大きな契機になっています。近未来の図書館サービスがどのようなものになるのか、本のあり方、インターネット、著作権などをキーワードに想像をめぐらせてみましょう。	8/7 (土) 13:50~15:20

【講座4】コミュニケーション力を高める、自己表現力を高める（3キャンパス合同公開講座）

本年度新企画の3キャンパス合同講座では、浜田・松江・出雲の各キャンパスの講師が、共通テーマについて専門分野のお話をわかりやすく行います。今回のテーマは、「コミュニケーション力を高める！」です。オムニバス形式の3つの講座を半日間で受講できます。日常生活に役立つ楽しい講座にご期待ください。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
13	落合 のり子 (出雲キャンパス)	もっと素敵にコミュニケーション	誰もが、より良い人間関係を願いコミュニケーションを大切にしようとしています。けれども、自分の気持ちがいつでも、どんな相手にも上手く伝わるとは限りませんね。本講座では、ことば以外のコミュニケーションについてシニアパフォーマンス・インストラクターがお話しします。気持ちを上手に伝える表現方法の工夫について考えてみませんか。	8/28 (土) 13:30~16:30
14	川中 淳子 (浜田キャンパス)	聞き上手を目指したコミュニケーション	心の健康のためには、コミュニケーションが大切です。楽しい会話があれば、心は明るくなるでしょう。楽しい会話のためには話すことだけでなく、聞くことも大切です。本講座では、コミュニケーションと聞くことについて、臨床心理士がお話します。カウンセリングの考え方やスキルを知ること、聞き方について考えてみませんか。	
15	高橋 純 (松江キャンパス)	日本語なのに、なぜ伝わらない？	外国語ならばいざ知らず、日本語を話しているながら、なかなか話が伝わらないという経験をします。よく耳にするように、「主語」がなかったために、伝わらなかったのでしょうか？本講座では、日本語の特徴を踏まえながら、ことばによる日々のコミュニケーションで誤解なく理解してもらえるような方法を考えていきたいと思います。	

【講座5】島根で暮らす、環境共生という生き方

「地球の能力の限界をこえて、人類は持続可能ではない領域にすんでいる」（ローマ・クラブ）との警告が、今日、ますます現実味を帯びてきている。食料やエネルギーなどの資源枯渇、自然災害の急増や気候変動などの環境異変。地球規模での「環境危機」は、私たちに何を問いかけているのか。地球を持続可能な領域にいかにして引き戻すか、本講座では「島根で暮らす」から出発し、そしてこだわって、考えてみたい。

講座番号	講師名	テーマ	講義内容	開講日時
16	藤本 稯彦	「島根で暮らす、環境共生という生き方」への招待	地球規模の環境危機にたいして、私たちが日々の生活をおくる地域からどのようなアプローチが可能なのか。2009年度に開催された「環境共生×地域再生」セミナーで交わされた議論を再構成し、可能性を探りたい。	5/14 (水) 18:20~19:50 会場：島根県立大学 講義・研究棟 中講義室3
17	大野 和興	日本の農村、これからどうなる、どうする?! 日本とアジアの村々を歩き続けて	約40年にわたって日本各地・世界各地の農山村を歩いてきた経験をもとに、「いま日本と世界の農業が置かれている大状況」という広い視点をおさえつつ、個々の地域の農業現場での実践事例を報告し、日本の農村の現状と展望を検討する。	5/28 (金) 18:20~19:50 会場：弥栄会館 (浜田市弥栄町)
18	福島 万紀	里山から考える、ムラのこれまでとこれから	弥栄の人々は、山の恵みをいただき、炭焼きなど山の資源を活用して生活してきた。しかしながら今日では、山に入る、炭を焼くなどの光景があまりみられなくなった。弥栄の暮らしの容姿とこれからの新しい可能性を考えるために、弥栄の里山を訪ねる。* 天気がよければ少し里山を歩きたいと考えております。	6/12 (土) 13:00~15:30 会場：ふるさと体験村、 弥栄山 (浜田市弥栄町)
19	相川 陽一	「次の世代」に伝えたい、弥栄に生きる農家の「声」と「想い」	弥栄に生まれ弥栄に暮らす、一度外に出て戻ってきた、生まれは違うが弥栄で就農したなど様々な経緯を経て、現在、弥栄で暮らす農家の方々に、「私が農家になったわけ」を手始めに語っていただく。	6/25 (金) 18:20~19:50 会場：島根県立大学 講義・研究棟 中講義室3
20	竹ノ内 裕文	農や自然とのかかわりから考える、「よく生きる」ことの探究と継承	「環境危機」に直面するなかで、自然と人間との新たな関係のあり方について、私たちは問いかけられている。自然保護と生活にかかわる問題や、農という営み、農村での生活について、「よく生きる」ことの探究と継承の視点から検討する。	7/17 (土) 16:30~18:00 会場：弥栄会館 (浜田市弥栄町)